

東京パラ陸上100㊦5位 日進市長に報告 石田選手「パリでメダルを」



表彰状を手にする石田選手(右)と、同選手がサインしたTシャツを持つ近藤市長＝日進市役所で

東京パラリンピックに初出場した日進市の愛知学院大四年、石田駆選手(ニシ)が、市役所を訪れ、近藤裕貴市長に結果を報告した。陸上男子T47クラス(上肢障害)の100㊦で日本記録

出場。その年に高校時代の100㊦の自己記録11秒22を塗り替え、今回は11秒05とさらに更新した。

国際大会は三度目だったが「競技場のモザイクアートの観客席やライト、アナウンスの音質まですごかった。いろいろな困難を乗り越え、ここまで来たんだとあらためて実感した」と東京パラを振り返った。左腕の筋肉の大半を失い、可動域も狭くなったため、試行錯誤を続けてバランスのよい走りを追求してきたという。

本命の400㊦では予選

敗退となったが、三年後にはパリ・パラリンピックがある。石田選手は「今回のリベンジでメダルを取りたい」と意気込み、近藤市長は「まだたくさん記録を塗り替えられるし、夢もあるのでこれからが楽しみです」とエールを送った。同行した同大陸上競技部の菅原研州部長は「100㊦出場は直前まで決まらずやきもきしたが、大変な活躍をしてうれしい。卒業後も本人が満足できるパフォーマンスができることを望んでいる」と話していた。

(平木友見子)